

日本災害医学会 学会主導研究

研究実施状況報告書

- ・研究代表者氏名：島田 裕平
- ・所属機関・職名・職種：東京大学大学院法学政治学研究科 博士課程
- ・研究課題名：災害時トリアージにおける専門知の社会への架橋
- ・採択年度： 2023 年度
- ・研究期間：(2) 年計画の (1) 年目
- ・来年度研究助成申請を： 行う
- ・来年度研究助成申請を行う場合には、以下に支出予定を記載してください。
(今年度未使用分があった場合には、表には含まず、表の下の項目にて記載してください。)

	令和 6 年	令和 年
施設備品費 (※)	0 円	円
消耗品費	25000 円	円
旅費	60000 円	円
人件費	0 円	円
その他	115000 円	円
合計	200000 円	円

※10 万円以上かつ耐用年数 1 年以上のもの

※今年度未使用分予算があった場合には、以下に予定を記入してください。

例) 旅費：10,000 円、人件費：20,000 円

- ・ 円
- ・ 合計： 200000 円

・研究実施状況の概要(800字以内で記載してください)

本年度は、災害医療専門家によるトリアージの実践の蓄積を整理し、社会科学の観点から捉えなおした。具体的には、国内外の関連する学術論文や報告書等を収集・分析することで、トリアージの実践の事実関係の確認とトリアージにおいて重要と考えられる要素を洗い出す作業を行った。その中で、特にトリアージという用語が様々な文脈において異なる内容を指している状況に着目し、トリアージの用語法に関する多分野レビューを行っている。トリアージの用語法の混乱が、災害医療以外の研究分野との齟齬、司法・市民との考え方の差異を生んでいる可能性が示唆される。レビューの成果は現在論文として出版するための準備中である。

さらに、文献調査で得られた内容について、各領域の専門家や実務家との議論を通じて、深掘りすべき項目を絞り込む作業も進めた。本年度では、DMAT事務局関係者など計3名に対してインタビューを実施し、さらに徳島県の防災訓練を見学する機会を得た。

また、第29回日本災害医学会学術集会においてパネルディスカッション「市民社会とトリアージ—今後の人文社会学的議論に向けた論点整理—」を実施させていただいた。当日の議論では、トリアージ従事者の法的保護に議論が集まり、トリアージを行う医療従事者保護のための法制度が重要だという点で合意がみ

られた。他方で、具体的な法制度の設計として、免責のための立法を行うのは法的・政治的に難しいのではないかという指摘があった。むしろ、裁判に至る前にトリアージを熟知している組織によって判断又は和解をする経路を作ること（例：学会内検証委員会・医薬品副作用救済制度や産科医療補償制度のような公的機関による制度・医療ADR(裁判外紛争解決手続)のような弁護士を中心とした組織)が提案された。それにより、仮に提訴まで至ったとしても、裁判官がトリアージの相場感を理解したうえで判決を書くことができるのではないかと指摘された。

- ・現在までの進捗状況(下記ドロップダウンリストより選択してください)

- ・現在までの進捗状況で「やや遅れている」「遅れている」を選択した場合には

その理由を200字以内で記載してください

理由：

- ・今後の研究の推進方策(400字以内で記載してください)

2年目では当初の計画を多少変更して、主に、レビュー作業の完遂と一般市民

へのアンケート調査、そして訴訟外紛争解決手続きの検討を行う。

これまでのレビュー作業を通じて浮上した課題は、医学系研究においてトリアージという言葉の混乱が生じているのみならず、非医学系領域でも言葉の混乱がみられることであった。今後の学際的研究や司法分野との齟齬や誤解を極力排すためにも用語の整理を最優先で進める。

次にアンケート調査であるが、一般市民におけるトリアージへの理解の程度は高くないことが想定される。今回は記述統計的にどのような理解状況にあるのかを把握することを目的とする。予備調査は2024年7月に実施予定である。

最後に、訴訟外紛争解決手続きの検討は、先行する事例の調査を通じて行う。不可避免的に生じる一定割合のエラーは、医療一般に内在するリスクである。各種制度の特徴を整理することを通じて、トリアージに適した制度設計を検討する。

・研究発表(今まで全ての本研究に関する業績を論文と学会発表に分けて記載してください)

【論文】

なし

【学会発表】

石橋真帆, 三羽恵梨子, 坂井愛理, 島田裕平, 関谷直也, 富尾淳「災害医療体制に

関するコミュニケーションの現状と課題」日本災害情報学会第 27 回学会大会

2023 年 10 月 28 日

島田裕平「災害時トリアージにおける専門知の社会への架橋」第 29 回日本災害

医学会学術集会 2024 年 2 月 24 日

島田裕平「災害医療と ELSI(法的・倫理的・社会的) 研究」第 29 回日本災

害医学会学術集会 2024 年 2 月 24 日

南谷健太「トリアージの法的責任に関する諸論点の整理」第 29 回日本災害医学

会学術集会 2024 年 2 月 24 日

三羽恵梨子「災害時の資源配分を語る言葉：「最大多数の最善」をより豊かにす

るために」第 29 回日本災害医学会学術集会 2024 年 2 月 24 日

南谷健太，島田裕平，冨尾淳「トリアージにかかる法的課題の検討のための諸前

提」第 29 回日本災害医学会学術集会 2024 年 2 月 23 日

三羽恵梨子，島田裕平，坂井愛理，石橋真帆，冨尾淳「災害医療トリアージの

ELSI 研究の試み」第 29 回日本災害医学会学術集会 2024 年 2 月 23 日

・日本災害医学会学術集会での研究発表の有無

発表状況 **あり**)

「あり」を選択された場合は発表年や演題名等を記載してください。

【シンポジウム】

島田裕平「災害時トリアージにおける専門知の社会への架橋」第 29 回日本災害
医学会学術集会 2024 年 2 月 24 日

【パネルディスカッション】

島田裕平「災害医療と ELSI(法的・倫理的・社会的) 研究」第 29 回日本災
害医学会学術集会 2024 年 2 月 24 日

南谷健太「トリアージの法的責任に関する諸論点の整理」第 29 回日本災害医学
会学術集会 2024 年 2 月 24 日

三羽恵梨子「災害時の資源配分を語る言葉：「最大多数の最善」をより豊かにす
るために」第 29 回日本災害医学会学術集会 2024 年 2 月 24 日

【ポスター発表】

南谷健太，島田裕平，冨尾淳「トリアージにかかる法的課題の検討のための諸前
提」第 29 回日本災害医学会学術集会 2024 年 2 月 23 日

三羽恵梨子，島田裕平，坂井愛理，石橋真帆，冨尾淳「災害医療トリアージの
ELSI 研究の試み」第 29 回日本災害医学会学術集会 2024 年 2 月 23 日

・「未定」を選択された場合、翌年度の学術集会で発表希望はありますか？
※ご意向に沿えない場合もございます。

発表状況 (この中から選択)